



平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月6日

上場会社名 藤田観光株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9722 URL <https://www.fujita-kanko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 瀬川 章
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役 企画グループ長 (氏名) 伊勢 宜弘 (TEL) 03-5981-7723
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月6日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	49,819	△2.0	△474	—	△351	—	△377	—
29年12月期第3四半期	50,849	2.9	325	—	458	—	825	623.8

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 △3,036百万円(—%) 29年12月期第3四半期 △182百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	△31.53	—
29年12月期第3四半期	68.85	—

当社は、平成29年7月1日付で当社普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第3四半期	103,010	24,115	23.2
29年12月期	107,362	27,637	25.5

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 23,916百万円 29年12月期 27,428百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	40.00	40.00
30年12月期	—	0.00	—	—	—
30年12月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	69,000	△2.3	900	△54.9	900	△56.1	400	△76.1	32.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年12月期3Q	12,207,424株	29年12月期	12,207,424株
30年12月期3Q	225,852株	29年12月期	225,555株
30年12月期3Q	11,981,707株	29年12月期3Q	11,983,004株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

当社は、平成29年7月1日付で当社普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	P. 7
四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 9
(セグメント情報)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善等により、緩やかな回復基調が続きましたが、米中貿易摩擦や金融資本市場の変動による影響にも留意する必要があるとあり、先行き不透明な状況が続いております。

日本政府観光局（JNTO）によると、日本各地で発生した自然災害による影響で9月の訪日外客数は5年8ヶ月ぶりに伸び率がマイナスに転じましたが、1～9月では前年同期比10.7%の伸び率で推移し、引き続き宿泊需要は堅調に推移いたしました。一方で、増加する宿泊需要を背景に競合他社に加え、異業種からの参入もあり、宿泊事業における競争環境は厳しさを増しております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましても自然災害による空港等インフラへの打撃もあり、主にインバウンド需要が高い施設におきましては、宿泊人員が減少するなど一時的に影響を受けましたが、アジア諸国を中心に、団体に比べ客室単価が高く滞在日数も長い個人のお客さま（F I T）の誘客に注力した結果、インバウンドの宿泊人員は前年同四半期比9.3%増の約140万人となり、WHG事業を中心に宿泊部門の好調は持続いたしました。

また、新規開業といたしましては、8月31日にWHG事業としては初の海外直営ホテルとなる「ホテルグレイスリーソウル」（335室）を開業したほか、新たにグランピング（*1）事業として、4月27日に開業いたしました「藤乃煌（ふじのきらめき）富士御殿場（静岡県）」（20棟）に続き、9月27日には長崎県五島市福江島に「Nordisk Village Goto Islands」（10張）を開業いたしました。北欧のアウトドアブランドであるノルディスク社との提携によるグランピング型の宿泊施設としてはアジア初出店となり、国内外からの誘客とあわせ、地元との協力により地域の活性化にも取り組んでまいります。さらには、インバウンドの中でも増加しているムスリム（*2）のお客さまをメインターゲットとしたハラール（*3）食対応のレストラン「和食 折紙 浅草（東京都）」を出店するなど、お客さまの多様なニーズへの取り組みも進めております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、昨年開業いたしました「箱根小涌園 天悠（てんゆう）」（150室）や「ホテルグレイスリー京都三条 南館」（128室）が通期稼働した一方で、本年営業を終了いたしました「箱根ホテル小涌園」や昨年運営受託契約が終了いたしました「アジュール竹芝」の影響に加え、主に婚礼部門やレジャー部門の減収により、当社グループ全体では、売上高は前年同四半期比1,030百万円減収の49,819百万円となりました。また、既存ホテルの改装に伴う費用に加え、新規開業のホテルや新規事業に伴う費用などが発生したこともあり、営業損失は、前年同四半期比799百万円悪化の474百万円、経常損失は、前年同四半期比809百万円悪化の351百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は、前年同四半期比1,202百万円悪化の377百万円となりました。なお、当社グループが重要指標と位置づけている減価償却費等負担前の営業利益は、前年同四半期比779百万円減益の3,768百万円となりました。

（*1）「グランピング」・・・「グラマラス(Glamorous)」と「キャンピング(Camping)」を掛け合わせた造語で、ホテル並みの設備やサービスを利用しながら、自然の中で快適・贅沢に過ごすキャンプの意味

（*2）「ムスリム」・・・イスラム教徒の意味

（*3）「ハラール」・・・イスラム教徒が許された行いや食べ物などの意味

業績の概要は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前期実績	当期実績	前年同四半期比
売上高	50,849	49,819	△1,030
営業利益	325	△474	△799
経常利益	458	△351	△809
親会社株主に帰属する四半期純利益	825	△377	△1,202
減価償却費等負担前営業利益	4,547	3,768	△779

セグメント別の概況については以下のとおりです。

WHG事業

WHG事業では、引き続きインバウンドの集客とともにリピーターの獲得を推進し、売上の最大化を図ってまいりました。インバウンドにつきましては、東アジアや東南アジアのほか欧米豪からの集客にも注力した結果、FITの利用が増加しました。また、当社グループ顧客会員組織「藤田観光グループ・メンバーズカードWAON」におきましては、会員数が外国人のお客さま約9万人を含め52万人を超え、お客さまのリピートにつながる取り組みも進めてまいりました。8月31日には韓国ソウル明洞エリアの南大門地区に「ホテルグレイスリーソウル」を開業し、日本からのビジネスや観光のお客さまを取り込むとともに、韓国国内でのブランド認知度を高めることで、韓国からのインバウンド誘客との相乗効果も図ってまいります。

宿泊部門は、台風21号や北海道胆振東部地震による空港の閉鎖、航空便の欠航等に伴う影響により、主に関西エアポートワシントンホテルやホテルグレイスリー札幌といったインバウンド需要が高い施設におきましては、9月の宿泊人員が大幅に減少いたしました。一方で、2017年5月に開業いたしました「ホテルグレイスリー京都三条 南館」が通期稼働し業績に寄与したほか、既存ホテルではインバウンドの集客が堅調であった新宿エリアを中心に客室稼働が好調に推移し、自然災害による減収を補うかたちとなりました。客室単価につきましては、全体で前年同四半期比1.9%増、首都圏のホテルでは同1.3%増、地方のホテルでは同2.9%増と堅調に推移いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は前年同四半期比840百万円増収の27,076百万円となり、営業利益（セグメント利益）は、既存ホテルの改装に伴う費用やホテルグレイスリーソウルの開業に伴う費用などにより、前年同四半期比103百万円減益の1,784百万円となりました。

リゾート事業

リゾート事業では、2017年4月に開業いたしました旗艦施設「箱根小涌園 天悠」が通期稼働した一方で、2018年1月には「箱根ホテル小涌園」が営業終了いたしました。

宿泊部門は、「箱根小涌園 天悠」におきましては、お客さまの満足度を高めることに注力し運営するとともに、国内外からの集客を強化しており、稼働を抑制していた前年同期と比べ客室稼働率は21.5%増で推移いたしました。部門全体の売上高は、「箱根ホテル小涌園」の営業終了による影響で、前年同四半期比991百万円減収の2,913百万円となりましたが、減価償却費等負担前の営業利益におきましては、「箱根ホテル小涌園」の営業終了に伴う減益を「箱根小涌園天悠」で補い、前年並みの水準で推移いたしました。

レジャー部門は、「箱根小涌園ユネッサン」におきましては、繁忙期である夏期に向けアクティビティの充実、イベントの告知を強化するなど集客を図ってまいりましたが、「箱根ホテル小涌園」営業終了後の入場人員の減少傾向に加え、猛暑による影響などもあり、売上高は前年同四半期比172百万円減収の1,173百万円となりました。なお、「箱根小涌園ユネッサン」につきましては、今後の箱根小涌園エリアの再開発計画の中で、新しい可能性の探索など事業の強化および再構築の検討を推進してまいります。

これらの結果、当セグメントの売上高は前年同四半期比1,160百万円減収の4,338百万円となり、営業損失（セグメント損失）では、前年同四半期比152百万円悪化の702百万円となりました。

ラグジュアリー&バンケット事業

ラグジュアリー&バンケット事業では、婚礼部門は、「ホテル椿山荘東京」におきましては、和婚需要の取り込みを図ったほか、料理メニュー見直しなどの商品強化を行ったことにより一人当たりの利用単価が向上いたしました。2017年11月に「ホテル椿山荘東京」に庭園内神殿を新設いたしました。婚礼件数および人員の減少トレンドを抑制するには至りませんでした。また、婚礼事業の展開施策として2017年5月に北九州市（福岡県）で運営を開始いたしました「Share Clapping Fukuoka」におきましては、当社で運営開始後、広島県の「Share Clapping」で成功している婚礼プロデュース力を活用し、新たな高単価客層を獲得すべく、戦略転換および業績改善に向けた取り組みを進めております。以上から、婚礼部門の売上高は前年同四半期比248百万円減収の7,263百万円となりました。

宴会部門は、「ホテル椿山荘東京」におきましては、2017年8月に改装いたしました大型宴会場「グランドホール椿（旧オリオン）」の活用などによりMICE案件の獲得を図ってまいりましたが、売上高は前年同四半期比141百万円減収の3,518百万円となりました。

これらの結果、ゴルフ部門などを含めた当セグメントでは、2017年3月で運営受託契約が終了いたしました「アジュール竹芝」の影響もあり、売上高は前年同四半期比691百万円減収の16,381百万円、営業損失は同348百万円悪化の931百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して4,352百万円減少の103,010百万円となりました。現金及び預金が1,149百万円減少するなど流動資産が1,372百万円減少、固定資産は、投資有価証券の時価の下落による投資その他の資産の減少があり2,979百万円減少いたしました。

また負債は、前連結会計年度末と比較して830百万円減少の78,894百万円となりました。これは主に法人税の支払により未払法人税等が1,050百万円減少したことが要因であります。なお、当第3四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末並みの46,703百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末と比較して3,521百万円減少の24,115百万円となりました。その他有価証券評価差額金が2,679百万円減少、利益剰余金は親会社株主に帰属する四半期純損失の計上や配当金の支払により857百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想などの将来予測情報に関する説明については、平成30年10月24日に発表しております「業績予想の修正に関するお知らせ 1. 業績予想の修正について」に記載のとおりです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,381	3,231
受取手形及び売掛金	4,959	4,967
商品及び製品	62	51
仕掛品	132	50
原材料及び貯蔵品	526	363
その他	2,653	2,676
貸倒引当金	△38	△35
流動資産合計	12,678	11,305
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	42,126	41,597
工具、器具及び備品(純額)	6,155	6,225
土地	11,946	12,279
建設仮勘定	425	237
コース勘定	2,416	2,419
その他(純額)	969	944
有形固定資産合計	64,041	63,704
無形固定資産		
のれん	280	250
その他	626	517
無形固定資産合計	906	767
投資その他の資産		
投資有価証券	19,538	15,720
その他	10,222	11,535
貸倒引当金	△24	△23
投資その他の資産合計	29,735	27,232
固定資産合計	94,684	91,704
資産合計	107,362	103,010
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,660	1,110
短期借入金	2,985	6,690
1年内返済予定の長期借入金	8,907	8,928
未払法人税等	1,071	20
賞与引当金	197	563
役員賞与引当金	7	4
ポイント引当金	121	172
事業撤退損失引当金	—	311
その他	7,037	7,559
流動負債合計	21,988	25,360

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
固定負債		
長期借入金	34,805	31,084
役員退職慰労引当金	117	104
事業撤退損失引当金	530	—
退職給付に係る負債	9,425	9,586
会員預り金	10,838	10,807
その他	2,018	1,950
固定負債合計	57,736	53,533
負債合計	79,724	78,894
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,081	12,081
資本剰余金	5,431	5,431
利益剰余金	5,927	5,070
自己株式	△929	△930
株主資本合計	22,511	21,653
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,113	2,433
繰延ヘッジ損益	△78	△52
為替換算調整勘定	△19	△34
退職給付に係る調整累計額	△99	△83
その他の包括利益累計額合計	4,916	2,263
非支配株主持分	209	199
純資産合計	27,637	24,115
負債純資産合計	107,362	103,010

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	50,849	49,819
売上原価	47,068	46,768
売上総利益	3,781	3,051
販売費及び一般管理費	3,455	3,525
営業利益又は営業損失(△)	325	△474
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	353	355
持分法による投資利益	88	51
受取地代家賃	40	65
その他	218	216
営業外収益合計	704	691
営業外費用		
支払利息	413	400
その他	157	167
営業外費用合計	571	568
経常利益又は経常損失(△)	458	△351
特別利益		
受取補償金	314	140
預り保証金取崩益	32	17
国庫補助金	—	3
固定資産売却益	1,813	2
関係会社株式売却益	199	—
投資有価証券売却益	165	—
特別利益合計	2,524	164
特別損失		
事業撤退損	—	66
事業撤退損失引当金繰入額	17	41
減損損失	1,254	33
投資有価証券評価損	16	—
固定資産売却損	3	—
遊休設備維持修繕費	2	—
特別損失合計	1,294	142
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,688	△329
法人税等	865	53
四半期純利益又は四半期純損失(△)	822	△383
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	△5
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	825	△377

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	822	△383
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△930	△2,677
繰延ヘッジ損益	△81	26
為替換算調整勘定	△9	△15
退職給付に係る調整額	12	16
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△1
その他の包括利益合計	△1,005	△2,652
四半期包括利益	△182	△3,036
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△180	△3,030
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	△5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

但し、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	WHG事業	リゾート 事業	ラグジュア リー&バン ケット事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	26,186	5,486	17,029	48,703	2,146	50,849	—	50,849
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	49	13	43	106	2,001	2,107	△2,107	—
計	26,236	5,499	17,073	48,809	4,147	52,957	△2,107	50,849
セグメント利益 又は損失(△)	1,887	△550	△583	753	△368	384	△59	325

- (注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない清掃事業、不動産周辺事業、会員制事業などがあります。
 2. セグメント損失(△)の調整額△59百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△66百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

主に「リゾート事業」において、箱根ホテル小涌園の営業終了決定に伴い、当第3四半期連結累計期間に1,118百万円の減損損失を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	WHG事業	リゾート 事業	ラグジュア リー&バン ケット事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	27,029	4,331	16,341	47,702	2,117	49,819	—	49,819
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	47	7	40	95	1,967	2,062	△2,062	—
計	27,076	4,338	16,381	47,797	4,084	51,881	△2,062	49,819
セグメント利益 又は損失(△)	1,784	△702	△931	149	△547	△397	△76	△474

- (注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない清掃事業、不動産周辺事業、会員制事業などがあります。
 2. セグメント損失(△)の調整額△76百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△81百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。